

# 第3期山科区基本計画の 総括について

令和8年6月



## 経過

第3期山科区基本計画は、令和3年度から令和7年までの概ね5年間の山科区のまちづくりの指針として策定した。

本計画では、めざすまちづくりの将来像に、『心豊かな人と緑の“きずな”のまち山科』を掲げ、「地域力が支える暮らしの安心・安全が息づくまち」「あらゆる世代が元気で笑顔あふれるまち」「水と緑が暮らしに寄り添う、環境に配慮したまち」「人を惹きつける魅力あふれるまち」を目指して、区民・地域団体・企業・事業者・学校など山科区のまちづくりに関わる全ての人と、行政が綿密に連携して、取り組むため、7つのまちづくりのテーマと取組を掲げた。

# まちづくりのテーマと取組

地域 コミュニティ・自治	(1) 地域のつながりを 深め強める	<ul style="list-style-type: none"> <li>① これまで培ってきた地域活動を継承・発展させる</li> <li>② 自治のつながりを次世代へ継承する</li> <li>③ 自治会や各種団体などの交流を深める</li> <li>④ 一人ひとりが自分ごととして地域に関わり合うことで豊かな人間関係を育む</li> <li>⑤ スポーツやイベントなどを通じた地域交流を促す</li> </ul>
	(2) 地域のつながりを 広め強める	<ul style="list-style-type: none"> <li>① テーマ型など新たなコミュニティの形成を促す</li> <li>② 地域活動を担う層の拡大を促す</li> <li>③ 大学、地域、行政などの連携を一層広げる</li> <li>④ 多文化共生を推進する</li> <li>⑤ まちづくりをサポートする情報を発信する</li> </ul>

子育て・若者	(1) 地域ぐるみで 子育てを見守る	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域ぐるみで子どもを見守る</li> <li>② 子育てに課題や困難を抱えた家庭への寄り添い支援を行う</li> </ul>
	(2) 地域ぐるみで 子どもの学びを応援する	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域ぐるみで学校教育を応援する</li> <li>② 校外で子どもたちが学び・成長する場づくりを進める</li> </ul>
	(3) 子育て世帯に 保健福祉サービスと 幼児教育・保育を提供する	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 子育て世帯を切れ目のない保健福祉サービスで支援する</li> <li>② 保護者のニーズに対応した幼児教育・保育を提供する</li> </ul>
	(4) 子育て世帯の交流を促し ネットワークをつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 子育て世帯を地域全体で温かく見守る</li> <li>② 地域の子育て施設や子育てサロン・子育てサークルでの交流を促す</li> </ul>
	(5) 若者の成長と 社会参加を応援する	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 若者の居場所づくりや様々な経験・交流の場づくりを進める</li> <li>② 若者の自治活動・地域活動への参画を応援する</li> </ul>

観光・産業	(1) 暮らしに根ざした 観光に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 山科区の魅力や特徴をいかした観光に取り組む</li> <li>② 区民が育む観光に取り組む</li> <li>③ 区をあげて山科区の魅力のPRを行う</li> </ul>
	(2) 地域資源をいかし 産業を振興する	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 特徴ある産業の魅力のPRを行う</li> <li>② 地域と学校・教育機関との連携を強化する</li> </ul>
	(3) 文化力を基軸として 社会的・経済的価値を 創出する	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 文化の力で社会的・経済的価値を創出する</li> <li>② 文化力で地域活動を活性化する</li> <li>③ 生涯学習を盛んにし、学び続ける風土を醸成する</li> </ul>

防災・防犯	(1) 災害への意識を高め、 防災の取組を強化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 一人ひとりの「防災力」を高める</li> <li>② 地域防災組織の機能を強化し、助け合える体制を整備する</li> <li>③ 災害に備えて地域・企業・行政・医療機関などの連携を強化する</li> <li>④ 総合的な防災・危機管理体制を強化し、災害に強いまちづくりを推進する</li> </ul>
	(2) 暮らしの安心・安全を 支える	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域の防犯対策を継続・発展させる</li> <li>② 生活安全の取組の充実を図る</li> <li>③ 交通安全の取組の充実を図る</li> </ul>

保健・福祉	(1) 全世代型の 地域共生社会を進める	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域福祉のネットワークを強化する</li> <li>② 人権文化が息づくまちづくりを進める</li> <li>③ 多文化共生を推進する</li> <li>④ ユニバーサルデザインの普及、推進を図る</li> </ul>
	(2) 高齢者の暮らしの安心と 生きがいをつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 高齢者がいきいきと活動できる場をつくる</li> <li>② 地域で見守る・支える体制を強化する</li> <li>③ 安心の環境整備を充実させる</li> </ul>
	(3) 障害のある人の 社会生活を応援する	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 障害のある人とその家族への生活支援を充実させる</li> <li>② 障害についての理解を深め、地域で支える環境づくりを進める</li> </ul>
	(4) 区民の健康をつくり、守る	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 健(検)診の実施と健康教育・相談を充実させる</li> <li>② 区民主体の健康づくりを推進する</li> <li>③ 地域医療体制を充実させる</li> </ul>

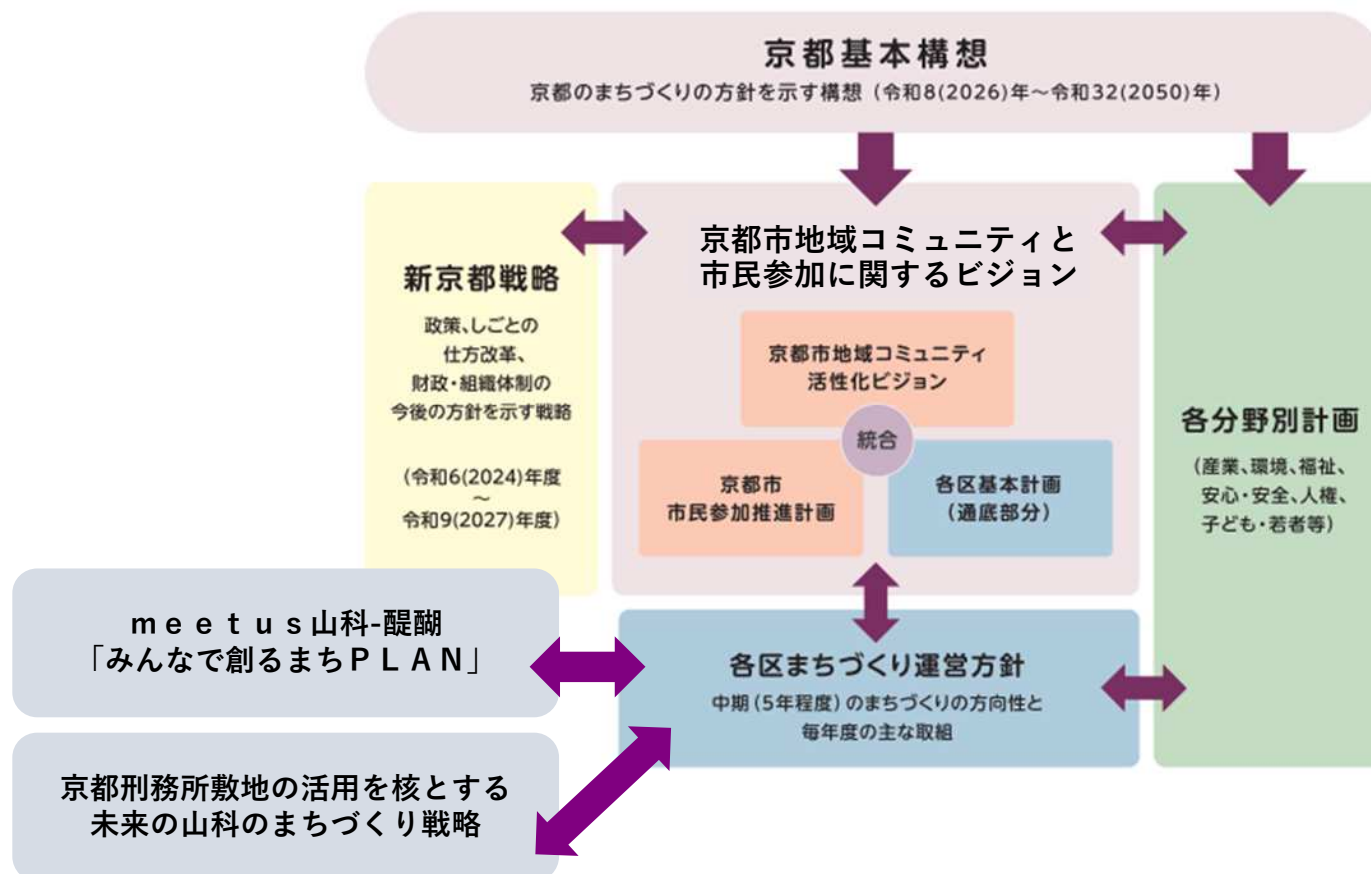
交通・都市基盤	(1) 道路を快適にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 安全で快適な道路空間の整備・改善に取り組む</li> <li>② 幹線道路網の交通対策に取り組む</li> </ul>
	(2) 公共交通の利便性を高め 利用を促す	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 公共交通の利用を促す</li> <li>② 地域を支える公共交通の充実を図る</li> <li>③ 新たな交通手段や移動の利便性向上策を幅広く検討する</li> </ul>
	(3) 山科区の持続的な発展に 向けた土地利用を目指す	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 「京都府務所数地の活用を核とする未来の山科のまちづくり戦略」や「京都市持続可能な都市構築プラン」を踏まえたまちづくりを推進する</li> </ul>
	(4) 良好な景観を形成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 良好な都市景観を創出する</li> <li>② 美しい自然的・歴史的景観を保全・継承する</li> </ul>

自然環境	(1) まちのうまい・自然を 大切にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生物多様性豊かな自然環境を保全する</li> <li>② まちの緑を増やす</li> </ul>
	(2) ごみのないまちをつくる、 ごみの出ない暮らしを営む	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 清掃・美化の活動を充実する</li> <li>② ごみの出ない循環型のまちを構築する</li> </ul>
	(3) 地域から地球温暖化 対策を考え、実践する	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 欲応じた省エネを進める</li> <li>② 再生可能エネルギーの普及を進める</li> <li>③ 環境に配慮したライフスタイルを営む</li> </ul>
	(4) 環境について学び行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学校などと連携し、環境保全活動の担い手を育成する</li> </ul>

# 山科区まちづくり運営方針の位置付け

・「京都市地域コミュニティ活性化ビジョン」、「京都市市民参加推進計画」及び「各区基本計画の通底部分」を統合し、より多くの方の市政やまちづくり活動への参加を推進する市民参加の取組と、京都のまちづくりを支える地域コミュニティ活性化の取組を両輪で一体的に進めていくことで、目指すまちの姿を実現するため、京都市の分野別計画として「京都市地域コミュニティと市民参加に関するビジョン」を令和8年3月に策定。

・各区基本計画の残りの区の特性に応じた部分については、「まちづくり運営方針」に形を変え、区の特性に合ったまちづくりの方向性と、毎年度の主な取組をまとめることとなり、令和8年6月、新たに「山科区まちづくり運営方針」を策定。



# 「第3期山科区基本計画」に基づくこれまでの主な取組

## 地域コミュニティ・自治

山科区の地域力・つながりをいかす

### (1) 地域のつながりを深め強める

地域主導による「ふれあい“やましな”区民まつり」や「山科義士まつり」等の取組を通じ、地域の連帯感の醸成、地域の活性化を進めた。

「meetus山科－醍醐」の推進に向け、地域の様々な主体と連携しながら機運醸成や情報発信、実証実験等の取組を実施した。

#### (主な取組)

- 山科区民ふれあい事業（H3～）  
自治連合会や各種団体、学校、福祉・医療施設、行政機関などが結集し、幅広い世代の区民の相互交流と連帯を深めることを目的に、毎年11月23日に開催。ステージ発表や各種ブース出展などを実施。
- 山科義士まつり（S49～）  
山科の年末の風物詩として、区民、区内企業、行政が協働して開催。区民による義士隊四十七士の行列、東部文化会館でのパフォーマンスなどを実施。
- meetus山科－醍醐の推進に向けた機運醸成（都市計画局）〔（R6～）「meetus LABO!」延べ来場者数：約1,300名〕  
令和7年3月、まちづくりの方向性や具体策を取りまとめた「meetus山科－醍醐 みんなで創るまちPLAN」を策定。  
あらゆる場面や機会をとらえ、まちPLANの周知を行った。  
東野公園について、子育て世帯が居心地よく過ごすための公共空間づくりを目指し、公園について考えるワークショップの実施、社会実験イベント「meetus LABO!」の開催（令和7年3月15日、令和7年10月13日）、利用者へのアンケート等を実施した。

## 地域コミュニティ・自治

### 山科区の地域力・つながりをいかに

#### (2) 地域のつながりを広め強める

NPOをはじめとする市民活動団体による多様なまちづくり活動を積極的に支援し、大学等との協働を進めることで「地域力」の向上につなげた。

SNSなどの情報発信ツールを活用し、地域のつながりづくり、区民の生活に役立つ情報提供を進めた。

#### (主な取組)

- 山科まちづくりチャレンジ応援事業 [(R6~) 延べ採択事業数：43事業、延べ相談件数：108件]  
山科に関わる一人ひとりが主体的に地域活動を担えるまちを目指し、山科区において新たな街づくり活動にチャレンジする個人・団体を、補助金の交付、相談対応、広報、設備の貸出し等により、伴走支援。  
また、「活動のつながりを創る場」、「活動の更なる面白い展開を探る場」として、本事業の採択者や相談者の交流会を実施。令和7年度は、相談者、採択者に、地域の事業者を加え、コミュニティ・バンク京信と共催で交流会を開催した。
- 山科区公式LINE [(R8.3.31現在) 友達登録数：3,136人]  
区内の総合的な情報を発信するため、平成29年度から山科区公式アプリ「やましなプラス+」を運用。令和7年度からは、アプリに代わり、新たに公式LINEを運用。毎月1回、区内のニュースや行政情報を配信。
- 大学連携  
区内にある京都橘大学・京都薬科大学と地域連携に関する協定を結び、まちづくりの推進のための連携した取組を実施。京都橘大学の「学まちチャレンジ!プロジェクト」、「プロジェクトマネジメント」で、地域課題の解決を共に考える取組や、区民まつりでの運営協力など、共創した取組を行った。  
京都薬科大学とは、山科区はぐくみネットワーク実行委員会との共催で、区内小学生を対象とした「理科実験講座」を実施。  
その他、学区の防災活動や健康教室、多世代の交流イベント等の実施の企画運営を行う等、様々な大学が地域に入り協力。

子育て、子ども・若者の育ちを地域で支える

### (1) 地域ぐるみで子育てを見守る

各学区が実施する子どもの登下校の見守りや防犯パトロール等の取組を支援し、地域ぐるみで子どもの安心安全を見守るとともに、子ども食堂の取組を支援するなど、子どもの居場所づくりの充実を進めた。

子育て情報の発信や、育児相談など、母子の孤立防止に取り組んだ。

#### (主な取組)

- 山科区における子どもへの食事提供支援事業 [(R5~) 延べ交付件数：33件]  
山科区地域福祉委員会へ負担金を交付する形で、子ども食堂など、子どもへの食事提供の取組を支援。
- やましな子育て支援事業 [(H27~) R3~R7 「やましなっこおめでとうガイド」 延べ配布数：6,000件]  
区内の子育て情報を集めた情報誌「やましなっこおめでとうガイド」を赤ちゃんが生まれた全ての家庭に配付するとともに、申込のあった世帯には民生児童委員等が家庭訪問を行い、育児相談や協賛事業者からの子育て応援グッズを配布するなど、母子の孤立を防止。
- 山科区学区の安心安全ネット継続応援事業 [(R3~) 安心安全ネット継続応援事業補助金延べ交付件数：45件]  
防犯や子どもたちの安全対策など、区民が自主的・主体的に行う身近な安心・安全の取組を支援・推進。
- こどもまんなか公園魅カアッププロジェクト (建設局) (R6~R7)  
東野公園において遊具の更新やインクルーシブ遊具の設置、公園全体の樹木の伐採・剪定を実施したほか、他の公園においても老朽化した遊具の更新を行うなど公園の利用環境の改善に取り組んだ。

子育て、子ども・若者の育ちを地域で支える

### (2) 地域ぐるみで子どもの学びを応援する

伝統文化や音楽などの文化体験の場の提供や、総合学習での共創を通じ、子どもたちが学び成長する場づくりを進めた。

区役所敷地内に「ゆうすぺーす やましな」を開設し、青少年が安心して過ごせる居場所づくりに取り組んだ。

#### (主な取組)

- やましなっこ育ち・学び応援事業 

{	(R5~) 「能楽を学ぼう！日本の伝統文化体験」延べ参加者数：1,481名
	「子ども音楽体験ワークショップ」延べ参加者数：234名

山科区はぐくみネットワーク実行委員会と連携し、区内の小学生を対象にした能楽やオーケストラの楽器演奏など、文化体験の場を提供し、子どもたちの育ちや学びを応援。
- 区内小・中学校の総合学習との共創 [(R7~) 連携協力した学校数：3小学校、3中学校]

小・中学校で実施されている総合的な学習において、meetus山科-醍醐の実行策をテーマに、区役所による出張講義や、フィールドワーク先の紹介、成果発表会での講評など、複数の小・中学校で山科の魅力発掘やまちの将来を考える取組を支援。地域の結節点の役割を果たしながら、ともに山科区の未来を考える取組を実施。
- 子どもの居場所づくり支援事業 [(R6~) 「ゆうすぺーすやましな」延べ利用者数：416名]

山科区南部エリアにおける青少年の健全な育成や自主的な活動の促進、学習環境の提供を目的に、中学生・高校生年代を対象にした居場所「ゆうすぺーす やましな」を設置・運営。

子育て、子ども・若者の育ちを地域で支える

### (3) 子育て世帯に保健福祉サービスと幼児教育・保育を提供する

乳幼児健診や各種手当の支給など、子育て世帯が安心できる保健福祉サービスを提供するとともに、「プレママ・パパ教室」の開講や家庭訪問などで、妊娠・出産・子育てに関する不安や悩みの相談に対応した。

また、「山科はぐくみだより」や「やましなっこおめでとうガイド」の発行など、子育てに役立つ情報を発信した。

#### (主な取組)

- プレママ・パパ教室 [(R3~) R3~R7延べ参加者数：492名]  
乳幼児健診などを通じ、適切な健康教育と保健指導を行うとともに、赤ちゃんの健やかな成長と父親、母親のサポートのため、妊娠期からの子育て支援を実施。
- やましな子育て支援事業(再掲) [(H27~) R3~R7「やましなっこおめでとうガイド」延べ配布数：6,000件]  
区内の子育て情報を集めた情報誌「やましなっこおめでとうガイド」を赤ちゃんが生まれた全ての家庭に配付するとともに、申込のあった世帯には民生児童委員等が家庭訪問を行い、育児相談や協賛事業者からの子育て応援グッズを配布するなど、母子の孤立を防止。
- 山科はぐくみだより  
健診等の行政情報や地域の子育て関連イベント、区内のお出かけマップなど、子育てに役立つ情報を掲載した「山科はぐくみだより」を毎月1回発行。

子育て、子ども・若者の育ちを地域で支える

### (4) 子育て世帯の交流を促しネットワークをつくる

「やましな子育て支援事業」により民生児童委員等が乳児の子育て世帯を訪問し、地域との顔の見える関係づくりを進めた。

「山科はぐくみだより」の発行など、子育て世帯の交流を促す情報発信により、母子の孤立化を防ぐ取組を進めた。

#### (主な取組)

- やましな子育て支援事業（再掲）〔（H27～）R3～R7「やましなっこおめでとうガイド」延べ配布数：6,000件〕  
区内の子育て情報を集めた情報誌「やましなっこおめでとうガイド」を赤ちゃんが生まれた全ての家庭に配付するとともに、申込のあった世帯には民生児童委員等が家庭訪問を行い、育児相談や協賛事業者からの子育て応援グッズを配布するなど、母子の孤立を防止。
- 山科はぐくみだより（再掲）  
健診等の行政情報や地域の子育て関連イベント、区内のお出かけマップなど、子育てに役立つ情報を掲載した「山科はぐくみだより」を毎月1回発行。

子育て、子ども・若者の育ちを地域で支える

### (5) 若者の成長と社会参加を応援する

区役所敷地内に「ゆうすぺーす やましな」を設置し、中学生・高校生年代が安心して過ごせる「居場所」づくりを推進した。

大学と連携し、地域課題の解決を共に考える取組や、区民まつりでの運営協力など、大学生が地域の様々な主体と関わるができる機会を創出した。

#### (主な取組)

- 子どもの居場所づくり支援事業（再掲）〔(R6～)「ゆうすぺーすやましな」延べ利用者数：404名〕  
山科区南部エリアにおける青少年の健全な育成や自主的な活動の促進、学習環境の提供を目的に、中学生・高校生年代を対象にした居場所「ゆうすぺーすやましな」を運営。
- 大学連携（再掲）  
区内にある京都橘大学・京都薬科大学と地域連携に関する協定を結び、まちづくりの推進のための連携した取組を実施。京都橘大学の「学まちチャレンジ!プロジェクト」、「プロジェクトマネジメント」で、地域課題の解決を共に考える取組や、区民まつりでの運営協力など、共創した取組を行った。  
京都薬科大学は、山科区はぐくみネットワーク実行委員会との共催で、区内小学生を対象とした「理科実験講座」を実施。その他、学区の防災活動や健康教室、多世代の交流イベント等の実施の企画運営を行う等、様々な大学が地域に入り協力。
- 「ふれあい“やましな”区民まつり」での協働  
「ふれあい“やましな”区民まつり」の家族いこいエリアにおいて、京都薬科大学・京都橘大学の学生が子どもが遊び子育て世代が交流する場を設置。

## 観光・産業

山科区の特徴をいかし、まちの魅力・活力を高める

### (1) 暮らしに根ざした観光に取り組む

おこしやす“やましな”協議会での取組、山科経済同友会と協働で実施する「山科検定」など、山科区の魅力を広く内外に発信し、観光振興に取り組んだ。

観光の分散化の流れも汲みながら、「とっておきの京都プロジェクト」や山科疏水の魅力を高める取組、醍醐地域や大津市等の近隣地域との連携した取組を実施するなど、地域資源を活かした観光に取り組んだ。

#### (主な取組)

- おこしやす“やましな”協議会での観光振興（H19～R7）  
山科の魅力を発信し、観光客を誘致するとともに、山科の賑わいと活気を創出し、山科の発展に寄与することを目的に平成19年に発足。観光看板の設置、キャラバン隊による日本各地での山科の魅力発信事業、観光パンフレット（日本語版、英語版）や観光動画の作成など、山科の魅力を発信する取組により、観光振興を進めた。
- 山科検定〔（H28～）R3～R7延べ受検者：832名〕  
山科の歴史、文化、産業等への理解を深め、山科への愛着を一層醸成することを目的に、山科経済同友会と協働して年に1回実施。
- とっておきの京都プロジェクト（産業観光局）〔（H30～）R8.3末時点「とっておきの京都」WEBサイト記事掲載投稿数（山科関連のみ）：97件〕  
特設ウェブサイトでの情報発信に加え、WEB広告やメディア等を活用した情報発信、紹介動画の充実など、エリアプロモーションを展開。また、府市共通の文化観光資源である「川」をテーマにした観光コンテンツを造成。
- びわ湖疏水船の運航再開（H30～）  
昭和26年に途絶えた舟運を観光事業として復活させ、平成30年春に67年ぶりに運航を再開。日本遺産「琵琶湖疏水」の歴史的価値と自然景観を活かした地域活性化を目的に実現させた。令和7年には琵琶湖疏水関連施設5か所が「近代の土木構造物」として日本で初めて国宝に指定。琵琶湖疏水の魅力や文化的価値等がより一層認められてきている。
- 日本遺産事業（上下水道局）（R2～）  
琵琶湖疏水沿線散歩道「そすいさんぽ」への案内サイン整備等を通じ、山科疏水を含む疏水沿線全域の回遊性を向上させる取組を実施。

山科区の特徴をいかし、まちの魅力・活力を高める

### (2) 地域資源をいかし産業を振興する

山科の観光案内パンフレットの作成支援や、市民しんぶん山科区版、山科区公式LINEでの情報発信を通じ、山科の地域資源や産業を区内外に広く知ってもらう機会を創出した。

区内小・中学校の総合的な学習の時間において、子どもたちが地域産業をはじめ山科のまちについて学び、山科の魅力を再認識し、山科の未来を考える後押しを行った。

#### (主な取組)

- やましな観光振興・賑わい創出  
山科区の観光情報及びまちの魅力を発信し、観光客の誘致につなげ、山科区の賑わいと活力を一層創出する。山科の観光振興や賑わい創出に寄与する取組を実施してきた、おこしやす“やましな”協議会の取組として、観光案内パンフレットや動画の作成等を実施。
- 市民しんぶん山科区版、山科区公式LINE（再掲）  
市民しんぶん山科区版や山科区役所ホームページ、山科区公式LINEなどのツールを使い、「京焼・清水焼」、「京仏具」などの伝統産業や「山科なす」などの京の伝統野菜の魅力、商店街の取組などを区内外に広く知ってもらう機会を創出。
- 区内小・中学校の総合学習との共創（再掲）〔(R7~)連携協力した学校数：3小学校、3中学校〕  
区内小・中学校の総合的な学習の時間において行われている、山科の魅力発掘やまちの将来を考える取組において、区役所が山科区のまちづくりについての出張講義やフィールドワーク先の紹介と学校をつなぐなど、地域の結節点の役割を果たしながら、ともに山科区の未来を考える取組を実施。

山科区の特徴をいかし、まちの魅力・活力を高める

(3) 文化力を基軸として社会的・経済的価値を創出する

「やましなっこ育ち・学び応援事業」等を通じて、子どもたちが能楽や音楽などのほんものの文化・芸術に触れる機会を創出した。

「山科検定」や「山科まちづくりチャレンジ応援事業」で支援した各種の文化的な取組等を通じて、生涯学習や気軽に学ぶ機会を創出した。

(主な取組)

- やましなっこ育ち・学び応援事業（再掲）  
〔 (R5～) 「能楽を学ぼう！日本の伝統文化体験」延べ参加者数：1,481名  
「子ども音楽体験ワークショップ」延べ参加者数：234名 〕  
山科区はぐくみネットワーク実行委員会と連携し、区内の小学生を対象にした能楽やオーケストラの楽器演奏など、文化体験の場を提供し、子どもたちの育ちや学びを応援。
- 山科検定（再掲）〔 (H28～) R3～R7 「山科検定」延べ受検者：832名 〕  
山科の歴史、文化、産業等への理解を深め、山科への愛着を一層醸成することを目的に、山科経済同友会と協働して年に1回実施。
- 山科まちづくりチャレンジ応援事業（再掲）〔 (R6～) 延べ採択事業数：43事業、延べ相談件数108件 〕  
山科に関わる一人ひとりが主体的に地域活動を担えるまちを目指し、山科区において新たな街づくり活動にチャレンジする個人・団体を、補助金の交付、相談対応、広報、設備の貸出し等により、伴走支援。地域の歴史や文化を学ぶ取組や山科の魅力を再発見する取組等も実施された。

暮らしの安心・安全を高める

### (1) 災害への意識を高め、防災の取組を強化する

地域の自主防災組織が災害時に機能するよう、「地域の防災力アッププロジェクト」において各学区の防災研修会や防災訓練等を支援し、避難所運営に必要な資機材の配備を実施した。

区内の放置空き家の減少を目指し、空き家調査や相談窓口の開設、空き家所有者への情報提供などの取組を進めた。

#### (主な取組)

- 地域の防災力アッププロジェクト [(H27～) R3～R7学区の防災訓練及び防災研修会への延べ参加人数：16,250名]  
各学区における防災研修会や防災訓練等の支援や、備蓄食料品や災害用のトイレやベッドなど、避難所を運営するための必要物資を充実させることを通じ、地域の防災力の向上を推進。
- 地域力を活かした空き家対策の推進 [(H29～) R3～R7空き家所有者への情報提供 延べ件数：603件]  
区内の空き家調査や、空き家所有者への相談窓口の開設、空き家の処分や活用に関する情報提供など、区内の空き家問題の解消を目指し取組を実施。

## 防災・防犯

暮らしの安心・安全を高める

### (2) 暮らしの安心・安全を支える

「世界一安心安全・おもてなしのまち京都市民ぐるみ推進運動」山科区推進協議会における防犯の取組の一環として、「山科区学区の安心安全ネット継続応援事業」や「笑顔と花いっぱいプロジェクト」で地域の自主的な防犯活動の推進や犯罪の起こりにくいまちづくりに向けた取組を実施した。

また、防犯機能付き電話機支給事業での詐欺被害防止や国際電話利用休止の啓発など、警察と連携し、生活安全の取組を実施した。

#### (主な取組)

- 山科区学区の安心安全ネット継続応援事業 [(H23~) R3~R7山科区学区の安心安全ネット継続応援事業補助金延べ交付団体数：45団体]  
登下校時の児童見守り活動、防火・防犯パトロールなど、区民が学区単位で自主的・主体的に行う身近な安心・安全なまちづくり活動を支援。
- 笑顔と花いっぱいプロジェクト [(H28~) R3~R7延べ支給件数：163件]  
区内の沿道や店舗敷地、ちびっこひろば等公共的な場所で、植栽及びその管理を行いながら、見守り活動につなげる地域の取組を必要資材の提供等で支援。
- 防犯機能付き電話機等支給事業 [(R4~) 延べ支給件数：184件]  
高齢者を中心に多発している特殊詐欺被害の防止のため、希望者に対し固定電話に接続できる通話録音装置を支給。

地域における健康と生活を共に支え合う

### (1) 全世代型の地域共生社会を進める

地域の福祉・医療関係団体等と協働した「やましな健康フェスタ」の開催や、「山科区の地域福祉を考えるつどい」への協力により、地域福祉のネットワーク強化につなげた。

フリースペース等、「居場所」や「通いの場」づくりを支援することで地域社会での孤立化を防ぐ取組を進めた。

「山科区人権映画のつどい」を開催し、人権啓発活動を推進した。

#### (主な取組)

- やましな健康フェスタ [(H30~) R3~R7延べ来場者数：8,571名]  
区民が広く健康寿命についての理解を深め、自身や家族等の健康づくりに取り組む機会となることを目的に、区役所と連携協定を結んでいる洛和会音羽病院や地域の高齢者施設など福祉・医療関係団体等と協働し、健康に関する普及啓発を行うブースを出展する「やましな健康フェスタ」を開催。
- フリースペースをはじめとした誰もが参加できる居場所の設置・運営 [(H24~) R3~R7延べ利用者数：11,865名]  
区民や地域福祉関係者との協働のもと、誰もが気軽に立ち寄れる「フリースペース」や誰もが参加できる「花壇プロジェクト」などの取組を支援。重層的支援体制における山科のまちづくりを推進。
- 「山科区の地域福祉を考えるつどい」への協力 [(R7) 参加した地域団体：28団体、企業・大学・まちづくり活動団体：6団体]  
山科区地域福祉推進委員会（事務局：山科区社会福祉協議会）が毎年開催している「山科区の地域福祉を考えるつどい」について、令和7年度の取組に地域の団体と企業や大学、まちづくり活動団体をマッチング。新たな交流機会の創出や、協働の可能性を模索する場を生み出す機会を創出した。
- 山科区人権映画のつどい [(R3~) R5~R7延べ当選者数：1,068名]  
地域の人権啓発活動の一環として、「山科区人権映画のつどい」を開催。

地域における健康と生活を共に支え合う

### (2) 高齢者の暮らしの安心と生きがいをつくる

フリースペースの設置・運営への支援や、山科区健康づくりサポーター「キャット・ハンズ」と協働したウォーキングや健康体操等の実施により、高齢者の『居場所』づくりや、生き生きと暮らせるまちづくりを推進した。

#### (主な取組)

- フリースペースをはじめとした誰もが参加できる居場所の設置・運営（再掲）〔（H24～）R3～R7延べ利用者数：11,865名〕  
区民や地域福祉関係者との協働のもと、誰もが気軽に立ち寄れる「フリースペース」や誰もが参加できる「花壇プロジェクト」などの取組を支援。重層的支援体制における山科のまちづくりを推進。
- 山科区健康づくりサポーター「キャット・ハンズ」監修コースを歩く健康ウォーキング〔（H25～）R3～R7延べ参加者数：664名〕  
「自らの健康は自らがつくる」という区民の健康づくりに関する意識の向上を図り、継続的な健康づくりのきっかけをつくるため、山科区の歴史と自然に触れながら楽しめるウォーキングの機会を提供。令和7年度は、プレイベントとして包括連携協定を締結している医療法人社団洛和会と連携し、ウォーキング教室も実施した。
- 山科区役所deキャット・ハンズ体操&モルック〔（R3～）R3～R7延べ参加人数：796名〕  
山科区健康づくりサポーター「キャット・ハンズ」と協働し、ステップ運動やロコモ予防運動の要素を取り入れた音楽に合わせて楽しめる体操や、モルックを実施。
- キャット・ハンズ定例ウォーキング〔（R3～）R3～R7延べ参加人数：19,263名〕  
山科区健康づくりサポーター「キャット・ハンズ」と協働し、週3回ウォーキングを実施。

地域における健康と生活を共に支え合う

### (3) 障害のある人の社会生活を応援する

区内の地域団体、医療機関、地域生活支援センター、障害福祉サービス事業所等と協働し、事業所交流会や「山科こころのつながる市」の開催、区内の相談機関等をまとめた「山科区こころのマップ」を作成配布することで、障害の有無に関わらず、地域でいきいきと安心した生活を送ることのできる環境づくりを進めた。

#### (主な取組)

- 事業所交流会 [(R3~) R3~R7延べ参加事業所数：122事業所]  
山科区の保健・医療・福祉機関・人権の向上に努める機関・団体等で構成された「山科こころの健康を考える会」において、関係機関同士の交流を深めながら、障害者支援のあり方について意見交換を行い、地域支援体制の強化を図ることを目的に開催。
- 山科こころのつながる市 [(R4~6) 延べ開催日数：9日間、延べ参加事業所数36事業所]  
山科区の保健・医療・福祉機関・人権の向上に努める機関・団体等で構成された「山科こころの健康を考える会」において、無印良品 京都山科、京都シティ開発株式会社の協力を得ながら区内の障害者就労支援施設・関係団体による自主製品の販売、ワークショップ、活動紹介等を実施。
- 山科区こころのマップ  
山科区の保健・医療・福祉機関・人権の向上に努める機関・団体等で構成された「山科こころの健康を考える会」において、山科区内外の精神科・心療内科医療機関や相談支援機関、障害者就労支援施設等区内の相談機関等のマップを作成。

地域における健康と生活を共に支え合う

### (4) 区民の健康をつくり、守る

「やましな健康フェスタ」の開催や、山科区健康づくりサポーターと協働した健康ウォーキングや体操等の取組により、自分の健康は自分がつくり守っていくことを基本に、健康づくりがしやすい地域づくりを進めた。

#### (主な取組)

- やましな健康フェスタ（再掲）〔（H30～）R3～R7延べ来場者数：8,571名〕  
区民が広く健康寿命についての理解を深め、自身や家族等の健康づくりに取り組む機会となることを目的に、区役所と連携協定を結んでいる洛和会音羽病院など福祉・医療関係団体等と協働し、健康に関する普及啓発を行うブースを出展する「やましな健康フェスタ」を開催。
- 山科区健康づくりサポーター「キャット・ハンズ」監修コースを歩く健康ウォーキング（再掲）  
〔（H25～）R3～R7延べ参加者数：664名〕  
区民の健康づくりに関する意識の向上を図り、継続的な健康づくりのきっかけをつくるため、山科区の歴史と自然に触れながら楽しめるウォーキングの機会を提供。
- 山科区役所deキャット・ハンズ体操&モルック（再掲）〔（R3～）R3～R7延べ参加人数：796名〕  
山科区健康づくりサポーター「キャット・ハンズ」と協働し、ステップ運動やロコモ予防運動の要素を取り入れた音楽に合わせて楽しめる体操や、モルックを実施。
- キャット・ハンズ定例ウォーキング〔（R3～）R3～R7延べ参加人数：19,263名〕  
山科区健康づくりサポーター「キャット・ハンズ」と協働し、週3回ウォーキングを実施。

### 交通・都市基盤を整える

#### (1) 道路を快適にする

山科区交通安全対策協議会と協力し、交通安全や交通マナーの啓発活動等を実施し、地域ぐるみの交通安全対策を進めた。

老朽化等により補修が必要な道路を整備し、安全で快適に通行できる道路環境づくりを進めた。

#### (主な取組)

- 山科区交通安全対策協議会と協力した取組 (S51~)  
春と秋の交通安全運動期間等に合わせ、山科区交通安全対策協議会と協力して交通安全に関する啓発活動を実施。
- 自転車安全利用講習会 [(R7.3.4) 参加人数：80名]  
令和8年4月1日からの自転車の違反への青色切符導入をの前に、山科警察署が実施する自転車安全利用講習会に山科区交通安全対策協議会とともに協力。
- 安全で快適に通行できる道路環境づくり (建設局)  
老朽化などによる劣化が著しい車道舗装の補修工事、沈下やガタツキが生じている歩道舗装の補修工事、側溝が開渠になっている箇所の蓋整備工事、崩壊した法面の補修工事等を実施。

### 交通・都市基盤を整える

#### (2) 公共交通の利便性を高め利用を促す

地下鉄・路線バス等の積極的な利用を促進し、地域の公共交通の利便性が向上するように、地域と関係機関などが連携し、地域の特性に応じた公共交通体系の維持・確保を図った。

##### (主な取組)

- 地域と連携したモビリティ・マネジメント事業（H25～）  
バス路線の更なる充実を図るため、京阪バス「鏡山循環バス」及び「くるり山科」等について、利用者数調査や時刻表を掲載したチラシの配布等のモビリティ・マネジメント※を実施。これらを踏まえ、令和6年10月には「鏡山循環バス」が増便された。  
※過度にクルマに頼る移動から徒歩や公共交通等による移動へと、一人ひとりの住民や一つひとつの職場組織等に働き掛け、自発的な行動の転換を促していく一連の取組
- 地域主体の生活交通確保支援事業（都市計画局）（R3～）  
小金塚地域の住民が主体となって運行されている「小金塚地域循環バス」について、「地域主体の生活交通確保補助金交付要綱」に基づき、継続して支援。
- 京都市山科地域公共交通会議の開催（都市計画局・山科区役所）（R3～）  
令和3年に、「山科区公共交通利用促進協議会」を「京都市山科地域公共交通会議」に再編し、公共交通の利用促進及び利便性向上、地域の実情に応じた輸送サービスのあり方について議論。
- 周辺部への誘客キャンペーン事業（交通局）（R7～）  
「市バス赤字系統の利用促進」と、「地下鉄とバスを組み合わせた移動への誘導」を重点に、洛西地域と山科・醍醐地域への誘客キャンペーンを実施。

### 交通・都市基盤を整える

#### (3) 山科区の持続的な発展に向けた土地利用を目指す

地域の魅力やポテンシャルを最大限活かし、「多様な人々が住み、学び、つながることのできる文化・教育のまち」を目指した組織を横断をしての地域活性化プロジェクト「meetus山科－醍醐」において、地域と行政を繋ぐ役割を果たしながら、新しい公共空間の活用を考える取組を進めた。

#### (主な取組)

##### ○ 都市計画の見直しの周知（都市計画局）（R5～）

都市計画マスタープランを踏まえ、令和5年に行った外環状線沿道等での都市計画の見直しの施策のねらいや内容を市民や事業者に分かりやすく発信・共有することで、「暮らしの豊かさや利便性につながる都市機能の集積や充実」「若者・子育て世代が京都で住みたい・学びたい・働きたい・子育てしたいと、より一層思える魅力的な空間の魅力の創出」を図っている。

##### ○ meetus山科－醍醐の推進に向けた機運醸成（都市計画局）（再掲）〔R6～〕「meetus LABO!」延べ来場者数：約1,300名

令和7年3月、まちづくりの方向性や具体策を取りまとめた「meetus山科－醍醐 みんなで創るまちPLAN」を策定。あらゆる場面や機会をとらえ、まちPLANの周知を行った。

東野公園について、子育て世帯が居心地よく過ごすための公共空間づくりを目指し、公園について考えるワークショップの実施、社会実験イベント「meetus LABO!」の開催（令和7年3月15日、令和7年10月13日）、利用者へのアンケート等を実施した。

#### (4) 良好な景観を形成する

まちの魅力やイメージの維持向上につながる良好なまちなみ景観の創出について、地域ぐるみでの空き家対策の取組や、京町家の保全及び継承に関する施策等を進めた。

##### (主な取組)

- 京町家保全・継承推進事業（都市計画局）〔（R8.3.31現在）個別指定京町家の指定件数：19件〕  
京都ならではの個性豊かで洗練された景観・文化の象徴である京町家を将来の世代に継承していくため、「京都市京町家保全・継承推進計画」に基づき、京町家の保全及び継承に関する施策を総合的に推進。
- 地域力を活かした空き家対策の推進（再掲）〔（H29～）R3～R7空き家所有者への情報提供 延べ件数：603件〕  
区内の空き家調査や、空き家所有者への相談窓口の開設、空き家の処分や活用に関する情報提供など、区内の空き家問題の解消を目指し取組を実施。

## 自然環境

次世代へ豊かな環境を受け継ぐ

### (1) まちのうらおい・自然を大切にする

「山科区フラワーロード推進事業」や「笑顔と花いっぱいプロジェクト」などの取組を継続し、花と緑あふれる美しいまちづくりを推進した。

#### (主な取組)

- 山科区フラワーロード推進事業 (H17～)  
花と緑にあふれた潤いのある美しいまちづくりを推進するため、花と緑のまちづくりサポーター（ボランティア）により、区役所前花壇、東部文化会館前花壇、JR山科駅前花壇へ四季折々の花の植栽を行う。
- 笑顔と花いっぱいプロジェクト（再掲） [ (H28～) R3～R7延べ支給件数：163件 ]  
区内の沿道や店舗敷地、ちびっこひろば等公共的な場所で、植栽及びその管理を行いながら、見守り活動につなげる地域の取組を必要資材の提供等で支援。

## 自然環境

次世代へ豊かな環境を受け継ぐ

### (2) ごみのないまちをつくる、ごみの出ない暮らしを営む

地域住民が一斉に美化活動に取り組む「山科区2万人まち美化作戦」や、清掃・美化活動に取り組む団体の活動支援を行うなど、美しくごみの出ないまちづくりを推進した。

#### (主な取組)

- 山科区2万人まち美化作戦〔(H15～)R3～R7延べ参加者数：55,301名、延べごみ回収量52.34トン〕  
山科区を区民皆の手で、ごみのない美しいまちにしていくため、区内自治連合会や関係団体との連携のもと、地域住民が一斉に美化活動を展開。区内はもとより広く全市に向けて、まちの美化をアピール。
- 京都市まちの美化実践活動助成（環境政策局）（H16～）  
道路、公園、河川等の公共的な場所で、自主的な清掃活動を実施する市民・団体からの申請に基づき、ごみ袋の給付等で支援。山科区2万人まち美化作戦への支援も実施。

## 自然環境

次世代へ豊かな環境を受け継ぐ

### (3) 地域から地球温暖化対策を考え、実践する

### (4) 環境について学び行動する

区民まつり等においてごみの削減や分別・リサイクルの取組を促進し、身近なところから環境について意識し、体験できる取組を進めた。

地球温暖化や省エネ対策、フードロスに関する学習会、体験ブースの設置等、地域性をいかした独自のエコ活動に取り組む「エコ学区」を推進した。

#### (主な取組)

- 「ふれあい“やましな”区民まつり」でのごみの分別・リサイクル  
「ふれあい“やましな”区民まつり」において、リユース分別ごみ箱を設置。マイバッグ、マイボトルなど持参の呼びかけを実施。
- 「森林×SDGs 事業・親子で親しむ山科の自然」〔(R6)参加した親子：20組 55名〕  
山科の豊かな森林環境を学ぶ親子向けの体験事業を令和6年の春と秋に実施。子どもたちへ里山学習をしている地域の団体とともに、親子を対象とした登山や間伐材を使った工作体験等を行った。
- エコ学区ステップアップ事業（環境政策局）（H28～）  
地域の主体的なエコ活動の充実と活動参加者の拡大を目的として、学習会の開催や省エネ診断の実施等、地域の状況に応じたプログラムの提供による支援を実施。